

拠点形成研究交流報告：海外研究拠点中国揚州大学との共同研究に関する研究打合せ会議の概要

海外研究拠点中国揚州大学の拠点代表者である趙国琦教授を、6月25日(日)から7月2日(日)まで招聘し、共同研究題目「乳汁を用いた乳房炎早期診断技術開発と機能性素材探索」に関する研究打合せ会議を開催した。

趙教授は牧野研究科長を表敬訪問し、12年間行っている大学間交流事業で学生交流と研究者交流を今後も継続して発展させることを確認した。研究拠点形成事業の内容に関して討議し、東北大学大学院農学研究科から最大限の助成を行うこと、また中国揚州大学は更なる研究者交流を行って発展を図ることを相互に確認した。

趙教授と麻生は共同研究に関する会議を行い、東北大学で取り組んでいる「乳汁中炎症因子測定による乳房炎早期診断法の開発」の研究内容を紹介した。中国揚州大学では、乳牛を800頭飼養して搾乳を行っていること、乳房炎発症が確認されていることの情報に加え、早期診断法の開発は必要であるとの見解を共有し、今後は揚州大学でのフィールド実験を実施することとなった。

共同研究題目「乳汁を用いた乳房炎早期診断技術開発と機能性素材探索」に関する研究打合せ会議を開催した。会議出席者は、趙国琦(中国揚州大学教授)、東北大学大学院農学研究科から麻生久、豊水正昭、原田昌彦、白川仁、米山裕、渡邊康一の研究拠点形成事業担当者に加え、本学を訪問していた米国フロリダアトランティック大学柴田芳美教授も参加した。趙教授から、揚州大学の紹介に加え、研究室で取り組んでいる研究内容が詳しく紹介された。具体的には、泌乳に関わる乳腺上皮細胞、栄養素吸収に関わる腸管上皮細胞の培養系を確立し、その細胞の機能性発現機構を細胞および遺伝子レベルの解析結果の紹介があった。その後、質疑応答を行い、今後の共同研究に向けての有意義な討論を行った。参加者全員で夕食を交えた交流会を実施し、揚州大学の詳しい研究体制と、機能性素材探索に関する可能性を討議する機会を得た。

6月27日(火)～6月30日(金)で、趙教授は応用動物学コースの各分野を下記の日程で訪問し、研究内容に関しての相互に説明を行った。趙教授は、今回の成果を元にそれぞれの研究分野に対応した拠点交流を行い、今後の共同研究への進展を図ることとなった。また、揚州大学に留学した学生との交流を行うことで、学生間交流の充実を図ることを再確認できた。



日程		交流内容	担当研究室 (午前 10 時) (午後 1 時 30 分)	
6月27日	火	東北大学農学研究科、交流	(動物微生物科学)	(動物資源化学)
6月28日	水	東北大学農学研究科、留学生交流会(午後6時)	(動物生理科学)	(機能形態学)
6月29日	木	東北大学農学研究科、交流	(動物遺伝育種学)	(動物栄養生化学)
6月30日	金	東北大学農学研究科、応用動物学系交流会(午後6時)	(動物生殖科学)	(機能形態学)

海外研究拠点中国揚州大学の拠点代表者である趙国琦教授を招聘により、今後の共同研究題目「乳汁を用いた乳房炎早期診断技術開発と機能性素材探索」の推進方法に関しては大きな進捗があった。このような機会を提供していただいた JSPS 研究拠点形成事業の研究交流支援に感謝する。